

ピアノは私の元気の素(モト)

現役最高齢ピアニストの、幸せ長寿のヒント～ 現役最高齢のピアニストとして活躍中の92歳の室井摩耶子さん。その自立した生活の中には、幸せな長寿のヒントがいっぱい！



生涯現役ピアニスト

1921(大正10)年4月18日生まれの92歳。

6歳よりピアノを始め、小学4年生から高折宮次氏に師事。41年東京音楽学校(現・東京芸大)を首席で卒業、研究科に進み、クロイツァー教授に師事、43年に修了。

1960年、世界最高峰ケンプ教授の推薦でベートーヴェンを4曲並べたりサイタルをベルリンで開催。まれに見る好評でヨーロッパにおける地位の第一歩を築いた。以降、海外13カ国で演奏を重ね、日本国内より国外に於いて名声を高め、64年にはドイツで出版の『世界150人のピアニスト』として紹介される。

レパートリーは、ケンプとロロフ直伝のベートーヴェンを主軸に、シューベルト、バッハ、ブラームス等を得意とし、その深い解釈には定評がある。

1980年帰国後も、日本を代表する名演奏家として活躍。その円熟した演奏は評判高く、80歳を超えピアノコンチェルトも協演。井上道義指揮、02年東フィル(東京オペラシティ)、06年10月神奈川フィル(神奈川県立音楽堂)と、満員の聴衆に深い感銘を与え、各方面より絶賛を博す。

元気、集中力の素(モト)は毎日、ヒレ肉を100グラム食べること！

日経新聞2013年7月26日夕刊に掲載された記事より『90代の巨匠』(千住真理子)

90代の巨匠

バイオリニスト 千住 真理子

とても90歳とは思えない現役バイオリニスト、イヴリー・ギトリス。2年ぶりに来日したマエストロ。少し腰を曲げながらも足取り軽くステージに現れ、サラサラとなびく白髪を揺さぶりながらバイオリンを奏でるギトリスの音色に、私は魅了された。ステージの上で演奏家は嘘をつけない。良い悪いも全てありのままのその人が表れることを私は知っている。それ故にギトリスの90年間に及ぶ心の模様とそのまま音に映し出された時、その人格に惹かれた。人間の心にある「外界とのバリケード」を外し、音楽に従順になった時、こんなに美しく温みのある音色が溢れ出るのか。縋わず、決められたような型から離れ、90年分のしわがそのまま味のある音になって、懐かしく切なく旋律を唄うギトリス。私がこらうなりたいと望み願うバイオリニストの姿そのものだ。それは単なる演奏家としての姿を越え、人間としての「こう在りたい姿」でもあった。

日本にも92歳の素晴らしいピアニスト室井摩耶さんが存在する。室井さんの奏でる音も、その歴史を感じさせる愛と慈悲に満ちた癒される音色だ。愁いを含んだその音色から、人間としての深みを感じる。しかし、どんな人でも90代になれば人間を超越したような音が出るわけではないのだ。一日、この積み重ね、自ら決断して道を歩んで来たその足跡によって、「魂の音」の合いも深みも味わいも、決まる。

願わくば、自分の選んだ道に誠意と信念を持ち、たゆまず努力を続け、虚勢を張らず謙虚に、卑下せず……。そんな風に私も歳を取りたい。90代の巨匠の音色には、人間と神の間にある「掴めない雲」の存在がある。



あすへの話題

小学館から単行本

『わがままだって、いいじゃない。92歳のピアニスト「今日」を生きる』

が4月1日に発売されます。

196頁 1,470円(税込)

http://www.shogakukan.co.jp/books/detail/ isbn_9784093882828

28

▼[ためし読みはこちら](#)から

